

徳山工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	土木建築工学科		対象学年		1		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	『高等学校 新政治・経済』第一学習社『新政治・経済ノート』第一学習社『高等学校 最新政治・経済資料集 新版』第一学習社						
担当教員	高橋 祥吾,光田 伸幸						
到達目標							
政治・経済に関する基礎的知識を身につけ、現代社会について理解を深める。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
政治に関する目標	民主政治の基本原理と、日本国憲法の特徴を詳細に理解できる		民主政治の基本原理と、日本国憲法の特徴を理解できる		民主政治の基本原理と、日本国憲法の特徴を理解できない		
経済に関する目標	資本主義の特質や財政・金融などの機能を詳細に理解できる		資本主義の特質や財政・金融などの機能を理解できる		資本主義の特質や財政・金融などの機能を理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
到達目標 A 2							
教育方法等							
概要	私たちが社会の中で生きていくうえで、政治・経済に関する知識は不可欠である。そこで、政治・経済の基本的事項の学習を通して、基礎的な知識を身につけていく。そして、めまぐるしく変化する現代社会の諸問題について、望ましい解決のあり方を共に考えていく。						
授業の進め方・方法	教科書の項目に従って講義形式で行う。そして適宜、新聞などを資料として活用し、授業内容と関連するような時事的な問題についても考える。						
注意点	※新型コロナウイルス(covid19)の拡大により授業が遠隔授業となった場合のみ、高橋が担当する。通常の授業は光田が担当する。 シラバスの内容は状況により変更する場合がある。 評価法：定期試験と平常成績によって評価する。 ・提出物は期日を守って提出すること。 ・平常成績としては、スピーチ、課題レポートやノート、ワークなどの提出物で評価する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 民主政治の基本原理とその展開1		授業の進めかたと評価方法について理解する 政治と法の機能について理解する		
		2週	民主政治の基本原理とその展開2		民主政治の展開と人権保障の発展過程について理解する		
		3週	民主政治の基本原理とその展開3		議会制民主主義の諸形態について理解する		
		4週	日本国憲法の基本原理		日本国憲法の成立と基本原理について理解する		
		5週	平和主義と日本の安全保障 1		憲法の平和主義と第9条をめぐる動きについて理解する		
		6週	平和主義と日本の安全保障2		安全保障と日本の防衛について理解する		
		7週	日本国憲法と基本的人権の保障1／中間試験（試験期間）		平等権と自由権について理解する		
		8週	前期中間試験の解答、解説 日本国憲法と基本的人権の保障2		試験の解答と解説を行う 社会権と新しい人権について理解する		
	2ndQ	9週	日本の政治制度1		国会の組織と機能について理解する		
		10週	日本の政治制度2		国会の権限、内閣の機構と機能について理解する		
		11週	日本の政治制度3		裁判所の機能と人権保障について理解する		
		12週	地方自治制度と住民の権利		地方自治のしくみと住民の権利について理解する		
		13週	政党政治と選挙制度		政党の役割、日本の選挙制度の現状と課題について理解する		
		14週	世論と現代政治の課題		世論の果たす役割と現代政治の課題について理解する		
		15週	期末試験		上記8回～14回の内容から出題する		
		16週	答案返却など		試験の解答と解説を行う		
後期	3rdQ	1週	国際社会と国際連合		国際法の意義と国際連合の役割について理解する		
		2週	国際政治の動向		第二次世界大戦後の国際社会の展開について理解する		
		3週	経済社会の発展1		資本主義経済の特質と変容について理解する		
		4週	経済社会の発展2		資本主義経済の課題、社会主義経済の特質と変容について理解する		
		5週	経済主体と経済活動		三つの経済主体、企業の役割と株式会社のしくみについて理解する		
		6週	市場経済の機能と限界／中間試験（試験期間）		市場機構とその限界について理解する		
		7週	後期中間試験の解答、解説 景気変動と経済成長		試験の解答と解説を行う 景気変動と経済成長について理解する		
		8週	物価の動き		インフレーションとデフレーションの意味と影響について理解		

4thQ	9週	財政の仕組みと働き	財政の役割，租税と公債について理解する
	10週	金融の仕組みと働き	金融市場のしくみと金融政策について理解する
	11週	日本経済の歩み1	戦後日本経済の展開について理解する
	12週	日本経済の歩み2	戦後日本経済の展開について理解する
	13週	労働問題 社会保障制度	今日の労働問題，日本の社会保障制度について理解する
	14週	公害防止と環境保全 地球環境問題	日本、そして地球的規模の環境問題について理解する
	15週	期末試験	上記後期7回～14回の内容から出題する
	16週	答案返却など	試験の解答と解説を行う

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	2	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9

評価割合

	試験	平常成績および提出物等	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0